

Title	SciSIPプログラムの内容分析
Author(s)	吉澤, 剛; 平澤, 冷; 田原, 敬一郎
Citation	年次学術大会講演要旨集, 25: 215
Issue Date	2010-10-09
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/9280
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

SciSIP プログラムの内容分析

○吉澤剛（東京大学）、平澤冷（ナレッジフロント）、田原敬一郎（未来工学研究所）

1. 概要

米国の「科学・イノベーション政策の科学 (SciSIP)」プログラムに関わった当事者間のメールのやり取り等から議論の変遷を追い、米国における社会的・政治的背景と併せて重要なポイントを採り上げつつ、プログラムの形成・発展過程を明らかにする。また、初期の議論における関与者や、現在の SciSIP プログラム採択者の所属や専門分野を分析し、こうしたプログラムの日本における形成の仕方や人材確保・養成のあり方について示唆を得る。

2. 初期の流れ

「科学政策の科学 (SoSP)」組織間グループは 2008 年 12 月 3～4 日に開かれたワークショップで採り上げられた次のステップとして、実務コミュニティを支援するためにエネルギー省科学局の Bill Valdez と SciSIP のプログラムディレクターである Julia Lane が発起人となってメーリングリスト (ML) および Wiki を立ち上げることとなった。12 月 30 日、ML が立ち上げられると、参加者から関係する論文の紹介や会合の案内などが始められた。初期の ML 上でのやり取り、特に 2009 年 2 月に行政、大学、民間の研究者・実務者の間で交わされた議論が米国における SciSIP とは何かについて理解するのに非常に参考となる。

2009 年 2 月 10 日、エネルギー省科学局の Debbie Mayer より科学への投資が雇用に与えるインパクトについて調査した研究を求める質問がなされ、それに呼応して、Julia Lane から科学への投資は景気刺激策としての関心が政府側には高いことが補足された。ML 上の研究者や実務者からは、連邦科学機関が雇用創出を売り物にすることは知的無責任であり政治的に危険であるといった警告や、院生のキャリア支援としてはどうかといった提案、短期的刺激としての研究開発投資への否定的見解、インパクト予測の困難性についての論考、科学技術への投資と他の公的投資では何が異なるのかについて政策コミュニティや一般を教育する良い機会だとする意見、数年前になされた欧州委員会による議論などが交わされた。パシフィック・ノースウェスト国立研究所の Jim Thomas による、雇

用創出の最近のサクセスストーリーを事例として取り上げることが必要という主張に対し、Bill Valdez はエネルギー省におけるナノテクや高性能コンピューティングの事例に見られ、この線で知識体系を発展させることは投資利益の技法を科学に転用できるかもしれないとしつつ、SoSP によって心臓部にあたることなので、他の見解に関心を持っていると述べた。ミシガン大学の Brian Kahin は、政府と議会からのサポートに依存しつつ、他の機関や民間とパートナーシップを組んで技術・イノベーションを進めるプログラムを持つ NIST はともかく、知識体系を政策過程に向けることは独立機関である NSF にとって問題であると指摘。SciSIP の補完的な機能が適当な場所に必要であり、他の公的機関からのサポートや政府のリーダーシップによって科学技術政策と経済政策のギャップを埋めることが求められると示唆した。これを受けてジョージメイソン大学の Christopher T. Hill は議会スタッフを交えたワークショップの開催を提案し、また、そのようなワークショップは新しい政策のリアルタイムアセスメントのフレームワークを構築するかもしれないとも展望している。こうしたリアルタイムアセスメントのための分析ツールの可能性についての議論が盛り上がると、アリゾナ州立大学の Clark Miller が、こうしたツールは政策立案者に需要はないのではないかとしつつ、SoSP の多くのアプローチが単純化しすぎているように見えるとして、科学的モデル、統計的データ、経済的指標に基づく議論を展開する実証主義的な研究者や実務者を牽制した。いわく、良い決定のためには、より多くの情報や、より良質の情報が必要ないし十分条件ではないということである。